

中原小との花の交流～20年を迎えて～

熊本県立小国支援学校小学部

地域とのつながりを大切にした教育を行う本校は、地域の小学校との交流も積極的に行っています。そのひとつである中原小学校との交流は、今年で20年目を迎えました。この交流のきっかけとなったのは、中原小児童の「中原小校区には、ぼくたちの他にあと一人いるんです。」の一言でした。自分たちの同級生が本当はあと一人いる、そのあと一人は、小国養護学校（現：小国支援学校）に通っていることを、そこで初めて担任の先生が知りました。そこで終わらず、同じ地域に住む同級生としてつながりが切れないようにと考えられた担任の先生が、生活科の授業の中でクラスと小国支援学校の交流を始められ、クラスの活動にとどまらず学校全体と小国支援学校との花の交流という形に発展しました。



交流内容及び様子

オリエンテーリングゲーム



グループでの自己紹介

児童の写真や「個人カード」を事前に交換していたため、好きなことを通してやりとりができ、お互いの受け入れも早くなりました。



パズルやボウリングなど、友達と一緒に活動できるゲームを行いました。ゲームを通して、自然と笑顔になり、楽しい時間を過ごしました。



花の苗植え

「こうするとうまくできるよ」自然にやりとりが生まれました。植えた花のプランターの花は、いくつか頂き、本校でも大切に育てています。

交流を通して

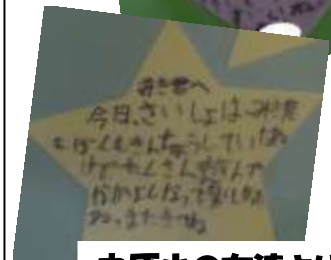
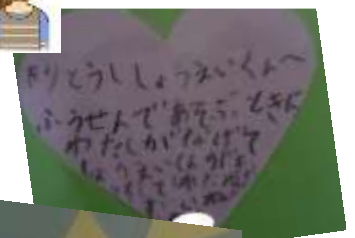


毎年会っていますが、お互いに確実に成長している感じが感じられます。支援学校の皆さんも笑顔でいてくれたし、中原小の子どもたちも自然体で落ち着いて交流できました。

当初は、年に1回だった交流も、現在では、1回目を中原小、2回目を小国支援学校で行う年2回になりました。交流を通して、共に学び合う楽しさや協力する大切さを体験しながら、お互いに相手のことをわかり合うことができていると感じます。交流前には、担当者同士の打合わせを必ず実施し、双方の学校が活動の意義を確認した上で、当日臨むようにしています。この地道な取組があったから、職員の入替わりがあっても、20年もの長い間続けることができてきたのだと思います。今後も子どもたち同士のかかわりを大切にしながら、この取組を継続していきたいと思っています。



中原小の先生より



中原小の友達より